

PHD LETTER

<27>

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT 1988・6

PHD運動とは1962年(昭和37年)より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事された岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年(昭和56年)からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会
編集人：草地 賢一
住所：〒650 神戸市中央区元町通5-4-3 元町アーバンライフ202
TEL(078)351-4892 FAX(078)351-4867
郵便振替：神戸1-29688 財団法人ピー・エイチ・ディー協会
定価：100円
レイアウト：エフアンドエフ

- 草の根の人々を訪ねて…………… P2
- 読者アンケートの結果…………… P7



パプアニューギニア第2の都市レイにて

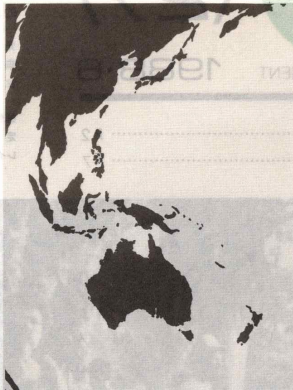
パプアニューギニアの街角でみかけた露天商。彼が私に「どこから来た」と声をかけてきた
 「日本からだ」と答えると、「日本はどこにあるのか？トヨタ、ヒタチをつくっている国だろう」と聞く
 日系企業のパワーに驚きながら、何を売っているのかとみればビンロージュだった
 暑い国の人々は、口の中を真っ赤にして噛んでいる
 初めてこれを噛んでいる人を見た時は、口を切ったのかと驚いた
 「コカ・コーラがなくてもがまんできる、しかしこれはそうはいかない」ビンロージュ売りの男はそういって笑った。

草の根の人々を訪ねて

Report from Asia and South Pacific

切実に農地解放求める声

1年間の日本における研修の最後のまとめは、フィリピン・ルソン島の農村で行なわれた。5期生コマ君(タイ・カレンの農村出身)とアリ君(インドネシア・スマトラの漁村出身)は、3月20日春の遅い神戸から一年で最も暑いフィリピンに飛んだ。現在フィリピンは、コリーアキノ大統領の公約「農地解放」の履行を求める農民の切実な声が高まっている。3月29日、私も彼等の後を追ってフィリピンズエバエシー州の村に入った。乾季の砂まじり、暑さにもくらくら思ひ。



2人は日本の農村との比較の中、特に農民の共同体づくりに多くのヒントを得たようである。彼等の研修を引き受けてくれたACES(Agency for Community Educational Service・地域の教育、奉仕のための機関)財団のC.O.(Community Organizer・地域組織者)の青年に指導を受け、ACESが進めるC.O.(Community Organizing・地域組織化)の現場研修が4月1日まで続けられた。

4月1日はイエス・キリストが十字架に架けられた受難日。この日マニラに帰ってきたわれわれは、都市のスラムに住む貧しい人々と農民が、手をたずさえて実施したカルパリオ(イエスの受難)の街頭行進に加わった。キリスト教国フィリピンの現実に触れ、クリスチャンであるコマ君は、かつてなかった経験を通して私に次のように語ってくれた。

「フィリピンの村や都市のスラムの中にイエス様の苦しみがあふれている。いつも弱い人々が苦しめられている。しかし、その弱い人々が、今日のように手を組み、自分達の手でその苦しみを克服する努力を見て感動した。ま



「今から村へ帰りますよ」と4月2日、フィリピン研修を終えて帰国直前の二人。左からアリ君、Mr.Jun(フィリピンACESスタッフ)、大村さん(PHDボランティア)、コマ君(ニウアイキ国際空港にて)

た、僕が10日余り滞在した村々では、農業と化学肥料に汚染された所を沢山見た。一部の地主に疎外された人々がいた。僕はカレンの少数民族の村に帰って日本と韓国そしてここフィリピンで学んだことをゆっくりやってみたい」

●指導者養成こそ…

4月4日、バプアニューギニアに向けて私は、フィリピンを発った。二度目の訪問。今年こそ民衆の中で農村開発を進める団体や地域を調査し、PHD研修生を得たいの思いがつのる。フィリピンの喧嘩と混乱とは対照的にのんびりゆったりした南太平洋のぬけるように青い空と海に迎えられ、首都ポートモレスビーのジャクソン空港に到着した。

一週間余りの滞在で、目指す団体に巡り会え、そこから研修生を選考できる可能性が生まれた。バプア・ニューギニア・ルター派教会。ここでは宣教の他にも二本の柱がある。即ち農村開発と医療奉仕。既に10年を越える歴史もある。オーストラ

リアから独立して13年目。開発以前の国と呼んでもいい。その中で地道に農業を起し、村づくりを進める「若い農民センター」というコミュニティセンターの農業指導者の養成に力を貸して欲しいと、いつか、ガム司教とカナイ農村開発部長の要請であった。

●明るさの根源は…

4月13日、再びフィリピンへ入り第3の訪問地ネグロス島へ飛んだ。空から見るネグロスの土は、アジアの中でかつて見なかった程よく肥えていた。しかし見わたす限りの砂糖きび畑。一見してこの豊かな自然の中で1985年1年だけで1000人をこえる子供達が、栄養不足で死んだことを想像することはできない。モノカルチャー(単一換作物農業)のもたらした非人間社会…

3日間にわたって砂糖労働者の集落に滞在した。今迄相当貧しい村を見てきたつもりであったが、それを上回る。極貧とはこの人々の生活をいうのか。砂糖価格の下落で仕事を失い土地を持たない人々。救済も一部の村人に留まり充分届かなかったようだ。絶望的状況の中で目を見るは動きをしているのがこの村の神父ピクトール師。毎朝6時前から夕方8時まで村々を巡って、少なくとも1日3回から4回のミサを執行している。しかもこのミサは現世の苦悩から逃れるためのものでなく、村人がこのきびしい現実を希望をもって克服していくための勇気の源泉になっているように思えた。いわゆる解放の神学が実践されている現場である。ピクトール神父と3日間一緒に私も行動した。二度三度ヴィジランテ(反共武装自警団)のパトロールに出くわしもした。今ここで必要とされていることは、自力で食糧をつくる農業の技術。砂糖農園で糖きびを刈ることだけ、運ぶだけという分断された仕事しかさせられなかった人々が、農の技術を求める思いは切実である。

政治と経済と軍事の諸矛盾がうずまくこの絶望的状況の中で、PHDは何か出来るのか。この問いに振り回された3日間を過ごしてネグロスの州都バコロドへ帰りついたのが4月19日。まる一日救済復興センターのスタッフと話し合った。「われわれは決して特定の政治イデオロギには立たない。徹底して人間の基本的欲求(Basic Human Needs)を満たすことに関わる。この関わり方の視点をもち続けて救済復興活動を続ける限り、苦しむ人々から信頼を得る」とスタッフの一人が語った。PHDもそうである。特定の宗教、政治の立場に立たず、村の平和と健康を目指し、村人の自立の実現を願う。この願いがかなえられるまで、PHDは3年でも5年でも特定の村に開

わる。こんな話し合いの末、もう一度ネグロスを訪問し、真剣に取り組むことを約束しマニラへと向かった。それにしても極貧の村にありながら、村人たちのあの明るさはどこからくるのであろうか。彼らは私に口々に言った。「まだ希望を捨てていない。われわれの口には微笑みがある。必ず神業は私達を祝福して下さい。われわれが生きる努力を続ける限り」

草地賢一



死の恐怖を乗り越え、ほほえみと希望の源泉はこのミサから。ネグロス、ラグラン村のキリスト教基礎共同体ミサに参加した砂糖労働者達。

研修生を囲む集い(兵庫県八鹿町)

かよう会/岸政次郎

4月28日午後七時半から八鹿町みふね会館で、かよう会主催の研修生を囲む集いが開かれた。PHDに関心を持つ40数名の参加者の中には、すでに婦人会や商工婦人部で団体として支援活動を行なっている皆さんもあって、草地総主事のライド説明で研修生の出身地のスリランカやインドネシアそれに最終研修地のフィリピンの生活が映し出され、録視されている緊迫した状況を見るにつけ、日本との違いに誰も驚いた様子だった。かよう会は、八鹿町の埋もれている歴史や文化を掘り起こそうと、今年の2月に結成された14名のボランティアグループで、PHD支援もその運動の一環として取組み、すでに4月の10日から27日まで八鹿、養父両町でPHD現地取材した「南の島の隣人たち」の写真展を開き、それを盛り上げるためその期間中の4月12日には八鹿町民会館でシンポジウム「ふだん着の宝物

を開催し、物質指向の生活の中で、豊かな人間らしい心を忘れていないのか?と60名の参加者に問いかけた。

PHDに関心を持つ40数名の参加者の中には、すでに婦人会や商工婦人部で団体として支援活動を行なっている皆さんもあって、草地総主事のライド説明で研修生の出身地のスリランカやインドネシアそれに最終研修地のフィリピンの生活が映し出され、録視されている緊迫した状況を見るにつけ、日本との違いに誰も驚いた様子だった。



それぞれの出身の村の現状を語るアブナールさん(中央)とアジャンタさん(右)

収穫のための葉づけ農業や養殖漁業に、果たして研修生の学ぶものがあるだろうか、という自省にも似た発言や、PHDという横文字が判りにくいという意見。それにPHD運動は研修生を鏡として自分自身の心に問いかける精

神運動だから、上からの命令で形式的な会員募集をするより、例え少ない人でも一人一人に呼びかけ、運動の本質を理解していただくに会員になってもらうような働きかけをしようという話などか囁出して有益だった。かよう会の一員で、八鹿を中心としたPHDの会員組織を作る先頭に立とうとしている内田正人君(43)は、東南アジアの若者たちのひたむきな姿を見て何となくあげたいという衝動にかられるのですと語っているが、その心こそPHD運動の本質であり、私達が失いつつある素直な人間愛だと思わずにはいられないのである。

岸政次郎さんのプロフィール
兵庫県八鹿町で呉服店を経営するかたわら八鹿の地域活性化活動の中心的役割を担う。但馬地方最初の本格的「第九」演奏会を成功に導く等文化、教育、奉仕の担い手づくりに精魂を傾ける。PHD終身維持会員。

お世話になりました。

3月末をもち、5年間お世話になったPHD協会職員を辞任しました。25名の研修生や彼らをご指導下さった方々からは、実に多くを学ぶことができ、大変感謝いたします。研修生をお世話下さった方々の、研修生を思う一所懸命な気持や姿勢は、とすればマンネリに陥り、感受性の鈍くなってしまう私自身を励まして下さるものでした。嬉しかったこと、困ったこと、いろいろありますが、やはり、研修生が充実した勉強ができたときや、研修生をお世話下さった方々が、研修生との出会いや、他の方々との出会いを喜んで下さるときは、私も、大変嬉しく、反対に、研修生が、彼らの希望通りいかない時やトラブル等は頭痛いものでした。これからは、一会員として、PHD運動に関わる人々の輪が大きくなり、新しい出会いと学びを望んで、活動したいと思っています。本当にありがとうございます。

増岡裕介

増岡さんは4月から兵庫県三田市の上野ヶ原養護学校の教師として勤務しています/編集部

僅か1年という短い間でしたが、私にとってはこの数百字という限られた字数では書き尽くせない様々な経験ができました。PHD協会の1日は長いです。朝9時から夜は9時、10時、時には最終電車まで帰ることもありましたが、日曜日のバザー会場で運動資金獲得の為にがんばっているその横をきくカップルが仲良く手をつないで通るのをチラリと横目で見ても、ため息をついたりもしました。そんな日々の中で私に得たかけがえのないものの1つは人の和です。PHD協会を様々な形で支援して下さいの方々、1人1人のこの運動への愛着を感じ、奥深さを知りました。そして、研修生達が1年間の研修を経ていくなかで、彼らの村のリーダー目指して成長していく姿を見ることができたことも貴重な経験でした。これからはボランティアとして、できる限りお手伝いできればと思っています。最後に、この1年間本当ににお世話になり、ありがとうございました。

木村 清美

木村さんはお父さんが急病のためその看護に明け暮れる生活です/編集部

研修フォローアップレポート

自立への組織化学ぶフィリピンでのコマさん

大村光良

「タイデハ農業ツカワナイ。アチコチニ池ツクル。土手ニ、夜、電燈ツケル。稲ノ虫ツマツテ池ニオチル。サカナ、虫タバテ大キクナル。人間、サカナ食ベル」
 稲だけでなく、豆類にまで農業をまき散らしている村人達を前に、コマ君は誘蛾燈(夜虫を誘って捕獲する燈火)の効用をたどたどしい英語で、一所懸命説明した。
 「一晩で、電球、盗まれるよ」という村人のことばに、集会所に集まっていた20~30人が、どっと笑った。
 そこは、ルソン島中央部、回りは農尾平野を思わせる平坦な農地が広がっている。だが村人達の生活は極度に貧しい。なぜだ?一土が死にかけている。有機質が全く欠乏し、石のようにがらがらだ。ふんだんにある筈の稲藁を田に動き込ませて燃やしてしまい、作物は高価な化学肥料と農薬づけ。

朝、水やりに行く若者と共に西瓜畑へ出かけていて驚いた。西瓜の貧弱なツルが雑草におおわれて縮んでいる。大切な換金作物なのに、大きく実る筈がない。
 「草を抜くんぞ。そして、土を、もっと耕すんだ」と、私は木蔭で寝そべっている水牛を指さした。「ダメ、ココノ人、働カナイ。農業ト化学肥料バカリ」と、コマ君はあきらめ顔。
 今回の研修は農業技術でなく農民の自立へ向けての地域開発にあった。フィリピンの農業と農村の構造が、農民のそのような状況を作っている。ひとにぎりの地主と大部分の農業労働者。この土地制度の不公平農地解放こそ必要とされるフィリピン。これを克服する組織化を見て欲しかった。果たして短い滞在で、この構造的状況をコマ君が理解してくれたかどうかは分からない。「僕、帰ったら働くよ。コーヒーをたくさん植える。協同組合をつくる。先生、きっと、

見に来て下さい」——コマ君の夢は、すでにチエンマイに飛んでいた。



農民の自立へ向けて真剣な討論をする村のミーティングに参加し、コマ君(写真左から2人目)は何を得たのだろうか?

大村光良さんのプロフィール

30数年におよぶ高校教師をこの春停年退職。教師の他に養蜂家としても有名。既に数冊の著作も出版している。今回コマ君、アリ君のフィリピンでの地域活動研修の引率ボランティア。帰国後PHD終身維持会員登録。

6期生 研修生報告

4月末まで約2カ月の日本語研修を終えた6期研修生3人は5月からそれぞれ、実地研修にはいりました。

タイのワラヤさんは、5月初めの一週間、兵庫県波賀町の田中吾郎さん宅からスタート。

5月9日から同30日までは、大阪府寝屋川市の淡水魚試験場で魚の養殖を学びました。6月は播州地区の農家の方々にお世話になり、稲作、養鶏、畜産を勉強しています。来日当初の緊張も解け、さわやかな笑顔がよみみられるようになりました。少しでも自分の村の農業に役立てようとして真剣に取り組んでいます。

スリランカのアジャンタさんは、やはり5月初旬、加古川市志方町の丸山さん宅で滞在し、県立農業高校を見学しました。その後6月上旬まで播州地区の農家で日本の農業全般を学習し、6月いっぱい、兵庫県但馬地区で頑張っています。20才若さあふれるアジャンタさんは、とても素直で、何事にも好奇心旺盛。滞在先の家族の方々にも愛されています。インドネシアのアフナルさんは、5月2日から淡路島の五色町の漁師、柳さん宅で日本の漁業を体験的に学習しました。正義感が強く、記憶力も素晴らしい。彼は実に意欲的。5月30日から1カ月間は香住地区での水産実習に参加しています。

このように今年度前半は、日本の農業・漁業を全般的に学び、9月からそれぞれの目的に応じて、より具体的な学習にはいる予定です。

ワラヤ、アジャンタの2人は8月上旬から約1カ月間、韓国で比較研修を行います。

また、インドネシアからのあと2人の研修生ハスリさん、モハメッドさんは7月に来日予定。来日後は、日本語研修にはいります。

研修生たちに出会う機会がありましたら、どうぞ励ましの言葉をお願いします。



インドネシアからのアフナルさんは淡路島で魚業の実習。

初めてのホームステイ 浜地律知さん(神戸市北区)

私の家に東南アジアの方が来られたのは、今回が初めてです。これまで欧米の友人が、2・3日ホームステイしたことがあります。互いに意気を通じるか?また生活習慣は?と色々心配でした。確かに当初は、言葉の点で不自由な面もありました。ワラヤさんは女性という

ことで、主婦の私と女性同志として相通じるものがあり、その点は楽でした。

わたしたちの家に来られた時は、彼女が「度風邪をひいていました。日本人だと風邪の時は風呂に入りませんが、彼女はタイの習慣で、シャワーを浴びるのです。私は、風邪をこじらせはしまいかとたいへん心配しました。

今回のホームステイを通じ、色々なことを勉強できたのが、とても大きな収穫でした。

(浜地さんのプロフィール)

ワラヤさんが日本語学習の期間、1ヶ月ホームステイさせていただいた浜地さんは、ご夫婦で歯科医を営まれています。研修生の受け入れは初めてでしたが、農家での研修が始まる際には自ら車で走り回って下さるなど、大変お世話になりました。



ホームステイ先の浜地さん一家とタケノコ撮影を楽しむワラヤさん(左)

6期生	6月	7月	8月	9月
ワラヤさん(タイ)	兵庫県播州地区農家	兵庫県丹波地区農家	中間まとめ	課題別研修
アジャンタさん(スリランカ)	兵庫県但馬地区農家		研修修国比較	PHD事務所研修
アフナルさん(インドネシア)	兵庫県但馬地区	静岡県西伊豆		前期まとめ
ハスリさん(インドネシア)	香住水産高校地	淡路漁業実習		近海漁業実習
モハメッドさん(インドネシア)			来日	日本語研修(神戸)

新6期生2班研修生の紹介(7月来日予定)



氏名:ハスリー・フェディ
 年齢:24才
 出身地:インドネシア・西スマトラ
 職業:漁業

インドネシアには珍しい2人兄弟の弟。フェディ家の伝統は「やさしさ」とのこと。もし、今1000万ルピアあれば、「まず漁船を買ってグループを組織したい」という。彼の家族にも会って話した印象は実にやさしい。良い家庭に恵まれて育った好青年である。フランスの取れた性格のように見受けられる。アフナルと同じように、漁業協同組合を草の根から作るのが、彼の希望である。



氏名:モハメッド・フェイジン
 年齢:24才
 出身地:インドネシア・西スマトラ
 職業:漁業

少年時代に両親が離婚し、きびしい家庭環境の中でたくましく生きてきた。彼が尊敬しているのは、最近亡くなったおじいさん。その遺品を大切にしている。日本では漁法、漁網そして漁業協同組合の勉強がしたい。ともかく村をよくするためには技術が大切である。技術の方がカネやモノを外国の救助してもらいよりも、ずっと大切である、と言っている。日本での学びに大きな期待を持っている。

帰国研修生からのたより

みなさん、おげんきですか。いまタイは雨季に入りました。むらのひとたちは、いそがしくなります。わたしは、5月12日、山のおとこのひととげっこんです。

4期生 ベリア・スティダ(タイ)

私は山の中に住んでいるので、まちなかへあまり出ませんので手紙のおそくなりました。サトイモと生薬の種を買って、5月にうえつけします。

3期生 プリチャー・ムアンチャン(タイ)

4月5日にインドネシアへ帰ってきました。村の人々は、私に日本で勉強したことを、早く教えて欲しいと言っていますが、私はグループを作ってからやりたいと思っています。

5期生 アリ・マルチム(インドネシア)

村の中にある問題は色々あります。私は日本でみたこと、きいたこと、勉強したことを村の人たちのためにしたいです。

5期生 ニーラカンティ(スリランカ)

総主事メモ
求められる生活の国際化
 総主事 草地賢一

国際協力、国際交流は必ず事柄を伴う。例えば農を通じたもの、食を通じたもの、医を通じたものというように具体的な生活の中にある問題を国内外の人々と共有する。この時協力や交流は継続性をもつ。「国際」が一つのトピックになってきているこの頃、もうひとつ市民の中にそれが一般化した頃のは、具体的な事柄が介在していないからではないだろうか。今われわれが考えなければならぬことは、生活の中の国際ということである。

最近、私が求められて講演する時によく言っていることが、前記のようなことである。従

って国際協力団体というのは、必ずしもPHDのような団体のみがそうだとはいえない。福祉の業を進める群、教育の業を進める群、その他あらゆる分野の事柄に関わる人々や団体が、その事業を国内に留めず、国境や民族を超えてそれを進めようとする時に、交流や協力が国際化していく。そのためには、会社社会といわれる日本の中にもう一つの社会、つまり市民社会が拡大しなければならない。

企業や組織の枠を超えて一人の人間として、市民としての自律性が今よりもっと養われねばならない。最近日本の各地に見られる原子力発電に対する不安の表明(PHD協会でも定例のセミナー、「寄り合い」で原発



PHDセミナーの若手の寄り合いでも4月・5月と原子力発電問題についての勉強会を催した。

4月23日に持たれた)、チェルノブイリ原子力発電所事故の影響が、地球規模の及んだことなどを考える時、私の言う国際の意味がご理解されるのではないだろうか。

総論的地球市民論より極めて各論的(具体的)事柄によって、より国際は生活化する。今求められているのはその意味における日本の市民の国際化であろう。

帰国研修生の状況を...

レター26号でアンケート調査を実施しましたところ、多数の皆様からご回答をいただき、ありがとうございます。

アンケートの中で「今号の記事の中で興味深かったのは何ですか」の設問では、①研修生の東西ツアー、②タイ・スタディーツアー、③草の根の人々を訪ねて、に多数の人々関心を持たれたようです。また、これから掲載してほしい記事では、①帰国研修生の状況が知りたいというのが圧倒的に多く、日本国内で研修生と出会った人々が、日本で学んだことが役に立っているのか、どんな生活をしているのか気にされているのがよくわかりました。またこのことに関連して、滞日研修生の状況という声も多くありました。このほかアジアの情勢、アジアと日本との関わり、ジュニア向け記事の要望も数多くありました。デザイン、レイアウトについても貴重なご意見をいただき、できる限り紙面に反映させていただきます。

これからも皆さんからのご意見をお待ちしています。

以下いくつかのご意見を掲載します。

(敬称略)

アジアを初め、第3世界といわれる国々を考えることは、今の日本における私達の生活を根底から問いかけてくれます。少しでも問題に取り組んでいきたい。(広島市・阿武秀治)

「草の根の人々」の思想...何を学んでいくべきか...こんなものを特集して欲しい。(兵庫県 栗粟郡山崎町・鎌田裕明)

研修生についてのビデオテープの貸し出しをお願いしたい。遠隔地の会員には重要だと思います。(福山市・香川博司)

レターの定期購読を友人にプレゼントしたいと思います。そのようなシステムがあればいいと思います。(広島市・泉川安喜)

私自身は大変興味深く読ませていただいているが、かなりの時間をさいて注意深く読まないと頭に入りにくいと思われる。余りアジアとか援助とかに関わりがない人にも理解しやすいように、もう少し簡単にした方がよいかもしいない。(横浜市・菊地綾子)

日本における研修生、そして帰国後の研修生の姿をさらに具体的に伝えて欲しい。また日本人は何を研修して、どうかかわる必要があるかもとらあげて欲しい。(東京都・栗野真造)

PHD協力者、レター読者の声を掲載してはどうか？研修生が見た日本観、特に習慣の違いのエピソード等ちょっとリラックスした記事も入れて欲しい。(西宮市・川那辺裕子)

観光旅行でないのに、色々な層の方が参加されたタイ・スタディーツアー。各々の職業をよみつつ、あ〜すばらしいなあって感じました。もっとたくさんを知りたいです。私

アンケート調査より

私たちは、本当に世の中のことを何も知らないで死んでしまうような気がします。(神戸市・熊川藤子)

**よろしくお願ひします
 ~新職員の紹介~**

4月1日から増岡、木村両氏にかわって土井孝夫さんと樋口千重子さんの二人が新しい職員として着任しました。土井さんは神戸生まれ。関西大学の哲学科を卒業し、明石市立高丘中学校で教師をこの3月まで、樋口さんは福岡県出身、九州大学の英文科で学び、卒業後1年半英国で語学研修をさせていただきました。総主事以下4名の職員ですから、ゆったりと研修期間をとる間もなく、現場の仕事に取り組んでもらっています。土井さんは研修、樋口さんは啓発を中心に担当します。

はじめて1カ月はなれないこともあって地をだせず(びさず?)にいた2人ですが、5月に入ると五月病などは全く無縁に本来の個性を徐々に発揮。旧勢力を圧倒しています。「人徳」でがんばります、と豪語する土井さん、体力勝負の樋口さん、皆さんのご指導よろしくお願ひいたします。(古株 藤野)

PHD NEWS

会費・ご寄附寄託状況

1988年	2月	117件	1,648,128
	3月	146件	2,302,274
	4月	396件	2,750,985
計		659件	6,701,387

以上の通り、多くの皆様より会費とご寄附を頂戴いたしました。ご協力いただき深く感謝申し上げます。

PHDTシャツ新作発表!

好評をいただいているPHDのオリジナルTシャツ。従来のものに加えて(一部は品切れです)、88年版を作りました。胸にアジア各地の言葉でPHDからのメッセージ「生きるとは分かちあうこと」を地図とともにアレンジ。男・女間わず、幅広い年齢層の方に着ていただけるデザインです。サイズはS・M・L。子供用は身長110センチから10センチきざみで150センチまで。大人用¥2,000、子供用¥1,500。もちろん収益は研修生を支える費用に充てられます。ぜひお求め下さい。

使ってください。ワタシタチ!

PHD協会では、各種のビデオ、スライド等の視聴覚材を用意しております。皆さんの学習に、ご活用下さい。

スライド

- ①「人を喰うバナナ」
フィリピンバナナプランテーション報告
100枚組・解説テープ付
- ②「タイ農民のアピール」
タイ農民の自立のための活動を追う。
94枚組・解説テープ付
- その他、PHDの活動以外にも、アジア・南太

平洋地域の草の根の人々の暮らしを撮ったものが2000枚以上あります。ご要望にあわせて、セットします。

ビデオ

- ①「世界の屋根のヒゲドクター」
PHD提唱者、岩村博士のネパールの活動(ベーター・VHS・30分)
 - ②「魚業に夢かける青年ユリ・タムリン」
4期生ユリ君の淡路での研修ぶり(ベーター・VHS・30分)
 - ③「PHDタイ・スタディーツアー1988」
(VHS・24分)
 - ④「地方における国際交流」
(VHS・10分・英語版)
 - ⑤「森の人々の叫び」
マレーシア、サラワクからのレポート
(VHS・英語版)
- 1回の貸出しは2週間以内
 貸出料は1回1000円(送料別)
- 友人にPHDレターを

PHDレターをお知り合いにプレゼントなさいませんか。送り先のお名前とご住所を記入して郵便振替でお申し込み下さい。メッセージを添えてお送りします。

1年分4回 1000円(送料込み)
 2年分8回 2000円(送料込み)

用紙をご請求下さい。

再度、試験研究法人の認定を受けました

これまで4年間にわたって認定を受けていた試験研究法人の期限切れにむけ、再申請を行ってまいりましたが、5月9日付で再び兵庫県知事より認定を得ました。これによってご寄附につきましては従来どおり免税の特典があります。詳しくは8頁をごらん下さい。

ご存知でしたか

大阪の太田憲治様から、「書き損じのハガキは、郵便局で1枚5円の手数料で、ハガキや切手に交換してもらえますよ」との情報をいただきました。ハガキの書き損じ、よくやっていますよね。「えいっつ」と破らないで、活かしてあげて下さいね。そうして無駄にならなくて済んだお金をアジアのために、活用していきましょう。

このように、PHDでは皆様からのアイデア、情報を、大歓迎しております。「あなたか作るPHD」コレ、です、やっぱり。

集まれ!草の根生活塾へ

毎夏の恒例プログラム草の根生活塾も今回で4回目。丹波篠山の自然の中で、アジアからの研修生とともに語り、働き、自炊し、さらに地元の方々の協力で農業体験を用意。毎年定員をこえるご希望がありますのでお早目にお申込み下さい。詳しい案内をご請求下さい。



子供たちは豊原に興味津々... (昨年の風景)

と き/88年7月27日(水)~7月31日(日)4泊5日
 と ころ/兵庫県多紀郡篠山町「たんば農文塾」
 対 象/小学生高学年、中学、高校生
 参 加 費/18000円(予定)
 募集定員/15名
 申込締切/7月9日(土)
 また、この草塾生を運営する18才以上のリーダーも併せ募集。詳しくはお問合せを!

今年の夏はインドネシア・スリランカで学ぼう!

PHDアジアスタディーツアーご案内

夏のプランをそろそろお考えだと思いますが、同じ時間とお金を使うなら、アジアの村を訪ねてみませんか。帰国した研修生の村を訪ね、研修生の村での働きを奨励するとともにアジアに学び、日本を見つめ直す機会として下さい。今夏は2本のツアーを用意。詳しい案内をご請求下さい。

☆インドネシア・西スマトラ・ツアー
 4期生ユリ君、5期生アリ君を訪ねます。
 日 程/88年8月22日~8月30日8泊9日
 訪 問 地/西スマトラ ハダラン周辺の漁村
 費 用/約18万円 募集定員10名
 申込締切/7月9日(土)

☆スリランカ・ツアー
 4期生ジャヤンタ君、5期生ニールカティアさん、チャールスさんを訪ねます。
 日 程/88年8月30日~9月8日 9泊10日
 訪 問 地/スリランカ ボヤワラーナ村
 費 用/約25万円 募集定員10名
 申込締切/7月9日(土)



/編/集/後/記/

「編集なんて、そんなむつかしそうなモン、できないヨー」と、新入りの◎は「編集会議」なる恐ろし気な代物を前にして脅えておりました。が、蓋を開けてみると、「明眸皓齒」「才気煥発」腰も軽いし、頭も、切れ

ると何とも頼もしい編集メンバーの方々の、ポンポン飛び交う会話(実は、これこそを、みなさんに、ご披露したい)の中で、◎があっけにとられるほどスムーズに議事進行していったのです。

それぞれが忙しい方たちばかりなのに、なおも、貴重な時間をPHDのためにさいて下さる方々のなんと活き活きされている事。PHD運動にかかわる方の底力を、垣間見させ

ていただいた◎は、ズーンとききました。田舎から出てきたばかりの◎が神戸で見た、一番目ざましいものの一つです。非力な◎はあの方々と、立ち交わっていけるかしらん、とゾクゾク、ワクワクしたのであります。

レター<27号>編集メンバー

赤松恵美子 坪 光子 得原輝美 柿原登志夫
梶原靖子 川那辺裕子 芝 美代子

(五十音順)

新規会員・寄付者ご芳名は、
個人情報保護のため掲載しておりません。